

〔中右記〕嘉保二年八月廿八日、上皇河○白於鳥羽殿有前裁合興、先此五六日以前相分方人、權中納言基忠爲左方頭、宰相中將宗通爲右方頭、此外公卿二人、殿上人十餘輩被相分也、是前裁堀體也、酉時許南殿寢殿巽角方御南面女院方也、有此興、先大殿烏帽子直衣、關白殿直衣、左大將直衣、相分令候左方給、左大臣直衣、中宮大夫、同民部卿、同令候右方、是依仰當座相分也、取方人、左、右衛門督直衣、藤中納言基忠、布江中納言直衣、右、左兵衛督直衣、治部卿直衣、宰相中將布衣、先右方人々參來立燈臺、但兼日依仰止風流、又被止籌指等、雖然尋常燈臺美麗也、居銀盤、左方數刻不立燈臺、雖相尋已及數刻、大略右方人々取隱歟、左方頗無面目事也、纔立小燈臺殿上六役之、前裁昇立前庭、左右各風流、作花入臺、以御隨身昇之、方人皆布衣、方六位下庭中、取歌書物置御前、次召講師左方予藤原宗忠、右方能俊朝臣、二番臣爲判者、口方勝了、人々退出、右方暫留御前詠和歌、

〔百練抄堀河〕嘉保二年八月廿八日、於鳥羽有前裁合事、

〔金葉和歌集秋〕鳥羽殿の前裁合に、女郎花のこゝろをよめる、

春宮大夫公實

あだしの、露吹みだる秋風になびきもあへぬをみなへしかな

鳥羽殿の前裁合にきくをよめる

修理大夫顯季

千年まで君がつむべき菊なれば露もあだにはをかじとぞ思

〔詞花和歌集秋〕白河院鳥羽殿にて、前裁あはせさせ給けるによめる、

周防内侍

あさなく露をもげなる萩がえに心をさへもかけてみる哉

敦輔王

おぎのはに事とふ人もなきものをくる秋ごとにそよとこたふる

〔千載和歌集秋〕郁芳門院の前裁合に、萩をよめる、

大藏卿行宗

物ごとに秋のけしきはまるけれど先身にしむは萩の上風